

2月21日

3. 南壁考古学公園

ヨハネ 7 章-10 章のイエスの教え(仮庵の祭りとそれ以後)

イエスがキリストで神の子であるのか？

(先ほど、神に子はいないと否定している寺院を見た。)

5 章のベテスダ事件の「安息日論争」によってエルサレム入城は命が危険。

- ①ガリラヤにおける五千人へのパン(6 章)「わたしがいのちのパンです」
→ 私たちが 23-24 日に見ていく。
- ②生ける水の川(ヨハネ 7 章 37-40 節)
仮庵の祭りが、約束の地に向かう時に水を与えられた、その満ちた時に「わたしが生ける水なのだ」と宣言。
- ③「わたしが世の光(8:10)」主がイスラエルの民に、火の柱として語られた。
→ 荒野の旅を私たちは 16-19 日にしてきた。
- ④そして後に、主は生まれつきの盲人の目を開かれる。(9 章)
「イザヤ書 35:5-6 そのとき、盲人の目は開かれ、耳しいた者の耳はあけられる。そのとき、足なえは鹿のようにとびはね、おしの舌は喜び歌う。荒野に水がわき出し、荒地に川が流れるからだ。」
神の国の到来が、御霊の水が注がれ、盲人の目が注がれることによって確証。
イエスご自身が、イスラエルの神、ヤハウエご自身なのだ。
- ⑤「良い羊飼い」の話(10 章)
「わたしが良い羊飼い」と言われたのは、エゼキエル 34 章から「わたしがヤハウエ」であることを教えられる。
 - イスラエルの羊飼い(指導者)が自分を肥やしている。
 - したがって羊が散らされる。→ このエルサレムが破壊され世界離散。
「わたしは自分でわたしの羊を捜し出し、これの世話をする。(34:11)」
 - 「わたしのしもべダビデはあなたがたの間で君主となる。(24 節)」
 - 二つの解釈、キリストご自身、あるいはダビデの復活。
 - この下がオフェル、そしてダビデの町となる。

私たちがこの方に来ているか？「5:39-40 あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。」(ベタニヤにて)

イエスをいのちとしているか、生ける水、聖霊を受けたか、光の中にいるか、羊飼いの声を聞いているか？